

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103184		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ふれ逢い		
所在地	岐阜市茜部大野1-45-2 (電話) 058-275-8380		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月24日	評価確定日	平成20年7月25日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改修した木造2階建てのホームは、静かな住宅地にあり、消防署、スーパー、本屋、喫茶店、公園等も近隣にある。1年前に職員の多くが交代したが、運営者や管理者、職員が人間関係を大切にし、よい仲間づくりをすることができ利用者に穏やかな介護サービスを提供できる環境が構築された。朝食後、リハビリ体操をし、当日の利用者の体調にあった距離のコースを選び散歩を行うことを日課としている。歩行が難しくなった利用者にも日常の中でできるだけ体を動かすことの理解を求め、利用者・家族と話しながら支援している。「家族のように心と心の通い合い」を理念とし、利用者がゆったりりと過ごせるように配慮している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 管理者が、1年前に交代し、前回の外部評価の項目の改善は課題を残しているものが多いが、職員の間関係は良い方向に改善され、改善課題の取り組みに努力をしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	②	管理者と運営者で自己評価を行い、今後取り組んでいきたいとする項目の具体的な対策がある。評価結果を真摯に受け止め、より良いホームづくりを目指し、運営に反映したいとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2ヶ月に1回、利用者代表、市職員、民生委員、ホームからは運営者と管理者が参加し、ホームの状況、行事、利用者の様子、地域との連携、課題について話し合っている。外部評価の結果を報告し課題等を検討している。平日の開催で家族の参加が得られにくい状況がある。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 毎月送信する「ふれ逢いたより」の紙面に、前月の行事の様子、季節柄注意が必要なことの記載の他、1人ひとりの様子を当番にあたった職員が手書きで記載している。面会時や電話での対話を大切にし、意見を言いやすい環境づくりに努めている。家族からの意見が出た場合は、法人の担当者が真摯に対応することを入居契約時にも説明している。 日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） ホームの大家は開設前より地域住民であり、現在も職員としてホームで働いていることもあり、地域との連携が図られている。また、毎日の散歩時に地域住民と挨拶を交わすなど、職員・利用者共に地域に溶け込んでいる。民生委員より地域の災害時訓練への参加を誘われており、地域からの応援を得るためにも参加する方向で検討している。

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 30 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	5.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~41,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		566 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 30 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80 歳	最低 60 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科、森歯科医院
---------	-------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営規定に、「家族のように心と心の通い合い」を理念にあげている。	○	地域での暮らしを支え続けるため、できるだけ地域に出かけたり、地域の人と挨拶を交わす等心がけ実践している方針を言葉で表現し、理念にも加えられたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1年前にほとんどの職員が交代したが、職員間の人間関係も良好でホームの思いを共有できる環境も整い、日々の利用者との関係においても心の通い合う関係であるように話し合い、実践できているか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大家が職員として働いていることから地域との係わりはあったものの、事業所としても、積極的に地域の関係者へ働きかけている。散歩や外出時の挨拶を大切にしている。利用者の体調管理に配慮し、地域行事への参加を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者も非常勤であるが、提供したサービスの1年の振り返りの機会とし、職員と共に話し合い、その後、運営者と管理者で作成した。評価を今後のホームの運営に反映したいとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者代表、市職員、民生委員、管理者、運営者をメンバーに近くの喫茶店で開催し、ホームの活動や運営状況報告、課題等話し合っている。ホームから災害時の対応を説明し、民生委員から地域の防災訓練参加への呼びかけがあった。	○	家族が会議に参加することで、家族も意見を出したり、ホームや制度の情報を得る機会となるため、現在の平日のみの開催に、土日祭日等も加え、家族も参加しやすい日時での開催となることが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回の推進会議以外にも、法的なことや権利擁護について等を相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを毎月発行し、前月のホームでの行事や行楽の様子を報告し、また、季節ごとにホーム内で配慮することなどを家族に伝えている。個人の暮らしぶりや健康については記載する係を当番で決め、作成、送付している。金銭関係の報告は法人が行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約書内に苦情申し立て窓口を明記しており、家族より苦情が出た場合は、法人の担当者1名が対応し、調査、改善措置、家族への説明を行っている。面会時の会話を大切にしている。家族に推進会議への参加を呼びかけているが、平日開催のため参加が少ない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほぼ全員の職員交代が1年前に行われ、まずは、職員体制の調整が急務であった。毎月、夕方、日曜、と会議を行って来て、人間関係が友好となり、利用者にとっても平穏なケアや支援を受けられる環境が構築された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の採用に大変な努力をしているが、現在の職員の勤務体制では、研修への取り組みにまで余裕がない状況にある。	○	常勤、非常勤を問わず、ホーム内で時間内の勉強会や外部研修の参加ができる体制の検討等の取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者は岐阜県グループホーム協議会等で同業者との交流がある。	○	職員も、ホーム職員以外の認知症のケアを行う職員や関係者と交流し、サービスの向上を図る機会を作る取り組みが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	この1年間利用者側の変更は無かったが、職員のほとんどが入れ替わる大きな異動があり、1年間、利用者と職員の良い関係づくりに努めた。利用者の特質の把握や場の雰囲気づくり、相談にのる等工夫し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1人ひとりを尊重し、大切な家族として共にホームで暮らすことを大切にし、支えあう関係づくりに努めている。行事にまつわる料理や決まりごと等教えてもらいながら一緒に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の個人記録や申し送りノートを確認して本人の希望や意見を把握し、サービスの提供を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーは、1週間に1回は1日をホーム内で利用者と過ごし、職員は、家族の意向を訪問時や電話で確認し、申し送りノートに記載、毎月の介護計画会議を開催し、検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	総合評価、計画の目標達成の状況や課題、ケアマネジャーの見解を記載し、家族に情報を提供している。利用者の健康状態により随時の計画変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当該事業所の他にもグループホームを運営しており、その利用者と一緒にバスを利用した花見等を行っている。医療機関への受診は、家族に依頼しているが、家族が介助できない場合は支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医による月2回の往診があるが、入居前からの医師をかかりつけ医としている利用者もあり、受診の支援をしている。冬季に風邪がはやり体調を崩した利用者が出たが、適切に対応し、医療機関との連携もうまくいっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症以外の疾患がある利用者があり、家族と医師、職員と話し合い、方針を確認し相談しながら支援している。過去には終末期の対応経験があるものの、現体制での受け入れに不安があり、今後検討するとしている。	○	今後、運営者、管理者、職員と共に、ホームでの終末期や夜間の対応がどこまでできるのか等を検討する取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族のようにとの方針であるが、個別の名前の呼び方は本人に確認した呼び方とし、人前で大きな声で尋ねないなど配慮している。個人記録は保管する場所を定め、適切に保管されている。金銭関係の記録は法人に集まる仕組みとなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務時間帯による業務分担があるが、利用者の生活リズムを優先したケアを行うことを基本姿勢としていることをミーティングで確認し支援している。食事の時間を本人の希望に合わせ、排泄時の対応も本人の希望を最優先し、安全確保にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、粥食の利用者1人以外は、普通に食事ができる利用者ばかりであるが、嚥下力や調理方法を工夫し、楽しい食事ができるように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日風呂の準備をし、利用者は男女別々に入浴日を設け、週3回、午後を入浴時間としている。希望や必要に応じ、予定日でなくても入浴を支援している。一般民家の浴槽の為、福祉用具を活用し、安全に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からの役割も「入居してまでしたくない」との声が本人や家族からあるが、暮らしの中で体を使えることの大切さを話し合いながら家事などを頼み、共に行う場面を提供している。体調を見ながら、季節の花見や行楽に、運営者が運転するバスで出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝食後、リハビリ体操を行い、動きを整え、散歩に出かけることを日課にしている。いくつか散歩のコースがあり、その日の利用者の体調や体力に合わせて決めている。スーパーに自転車を引きながら一緒に出かけ、帰りは車椅子で迎えに行く等の工夫もしている。	○	全員の利用者が気候と体調を考え戸外に出ることは難しい面もあるが、利用者にあわせた外出の方法、選択肢が多くあり、日常が豊かに感じる生活であってほしいとする方針の取り組みの継続を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や廊下のサッシ窓に昼間の施錠はない。日本家屋の民家で襖の区切りで窓の無い居室もあり、玄関先の場所は利用者の気に入った居場所となっている。管理者が外気に触れたい気持ちを理解し、閉塞感が無いように外へ誘っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	木造2階建てで、2階の利用もあることから、防災については日ごろより配慮している。消防署が近くにあるが、初期動作について職員間で話し合っているものはある、夜間帯の不安はある。民生委員から地区の防災訓練に参加を呼びかけられている。	○	地域の災害時の動きを知ること、地域住民からより協力を得やすくなることの期待からも、地域の防災訓練に参加できる方法の検討に取り組まれることが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	勤務表から食事づくりの分担が決められ、担当する職員がそれぞれ栄養を考えた手作りの食事を提供している。水分摂取は1日1,000ccを目安にしている。利用者1人ひとりの食事の摂取量把握はできているが、栄養バランスを踏まえた専門的な助言は受けていない。	○	さらには、限られた食材費の中での食事が適切な栄養バランスとなっているか、専門家からの助言を受ける等の取り組みに期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家活用型のホームで、一部改築があるものの、空間的に制限がある。歩行器利用が始まった利用者があるが、現在のところ対応はできている。2階の居室の利用は、階段の構造や降り口のリスクを把握し、利用者の状況により居室の移動を家族と相談し行っている。襖での間仕切りではあるが、1歩居室を出ると採光が良く、風通りも良い。	○	ホーム内の危険箇所や手すりの不足は十分把握し、職員が配慮しているが、さらには、利用者の身体機能の変化を今後も予測した安全への配慮、ケアの取り決め等検討の継続が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	襖で区切られた和室に、ベッドを入れ、家族とも話し合っ使用慣れた品や衣装箱が搬入されている。車椅子利用者があり、フローリング床、上がりかまちのスロープの取り付け等対応している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。